

米雇用減速を示唆する経済指標が相次ぐ

ポイント① 強弱まちまちの米企業景況感

5日に発表された11月の米ISM非製造業景況感指数は52.7と10月（51.8）から改善し、市場予想（52.3）も上回りました。底堅い米国内の個人消費に支えられ、活発な企業活動が続いていることが示唆されました。他方、1日発表の同製造業景況感指数は46.7と13か月連続で好不況の分かれ目である50未満となり、市場予想（47.8）も下回りました。世界経済の減速や米ドル高などが引き続き米製造業の逆風となっており、米企業景況感は強弱まちまちの状態が続いています。

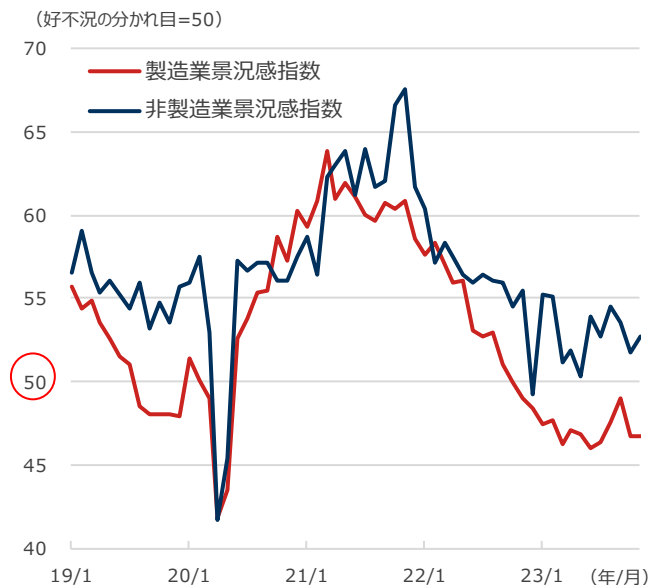
ポイント② 米製造業の雇用指数が低下

各指数の内訳を見ると、非製造業雇用指数が50超を維持している一方、製造業雇用指数は45.8へ低下し、2か月連続で50を下回りました。UAW（全米自動車労組）のストライキは10月末に終了したものの、依然として影響が残っているようです。米労働市場の減速や今秋からの学生ローンの返済再開などが、堅調なサービスセクターを下支えしてきた個人消費に影響を及ぼす恐れもあり、引き続き米雇用環境の動向に市場の関心が集まります。

ポイント③ 米利下げ観測が高まる

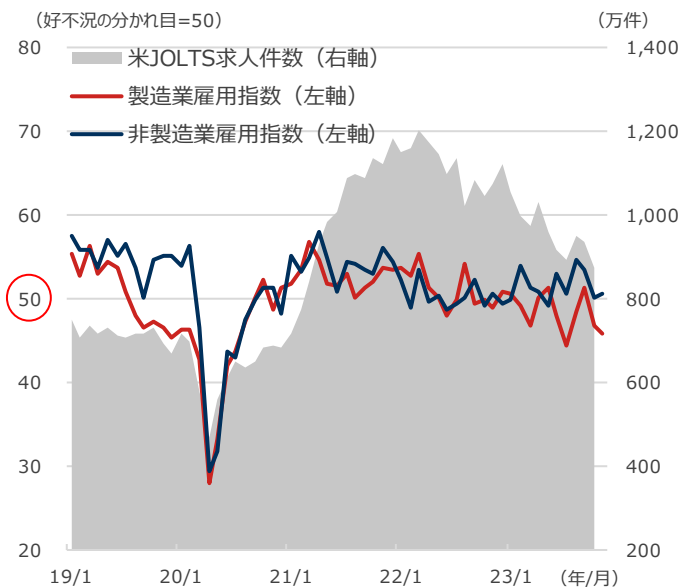
5日は10月の米JOLTS（雇用動態調査）求人件数も発表され、873万件と21年3月以来の低水準となりました。上述の米ISM製造業雇用指数の減速と併せ米労働需給の緩和が意識されたことから、同日の米10年国債利回りが大幅に低下するなど、来年の早期利下げ観測が高まりました。米雇用の減速を示唆する経済指標が相次ぐ中、8日発表の11月の米雇用統計に注目です。

米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数



期間：2019年1月～2023年11月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM雇用指数と米JOLTS求人件数



期間：(米ISM雇用指数) 2019年1月～2023年11月、月次
(米JOLTS求人件数) 2019年1月～2023年10月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

12月8日 米雇用統計 (11月)

重要

イベント 12月13日 米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。